

つばめほくぶ

燕北部地区

(新潟県燕市)

- 計画期間 平成19年度～平成21年度
- 面積 980ha
- 交付対象事業費 210百万円
- 市人口 80,091人 (地区内人口 17,000人)

ポイント 人と自然と産業が調和しながら、進化
するまちづくりをめざして
～ひとづくり・ものづくり・
自然を活かしたまちづくり～

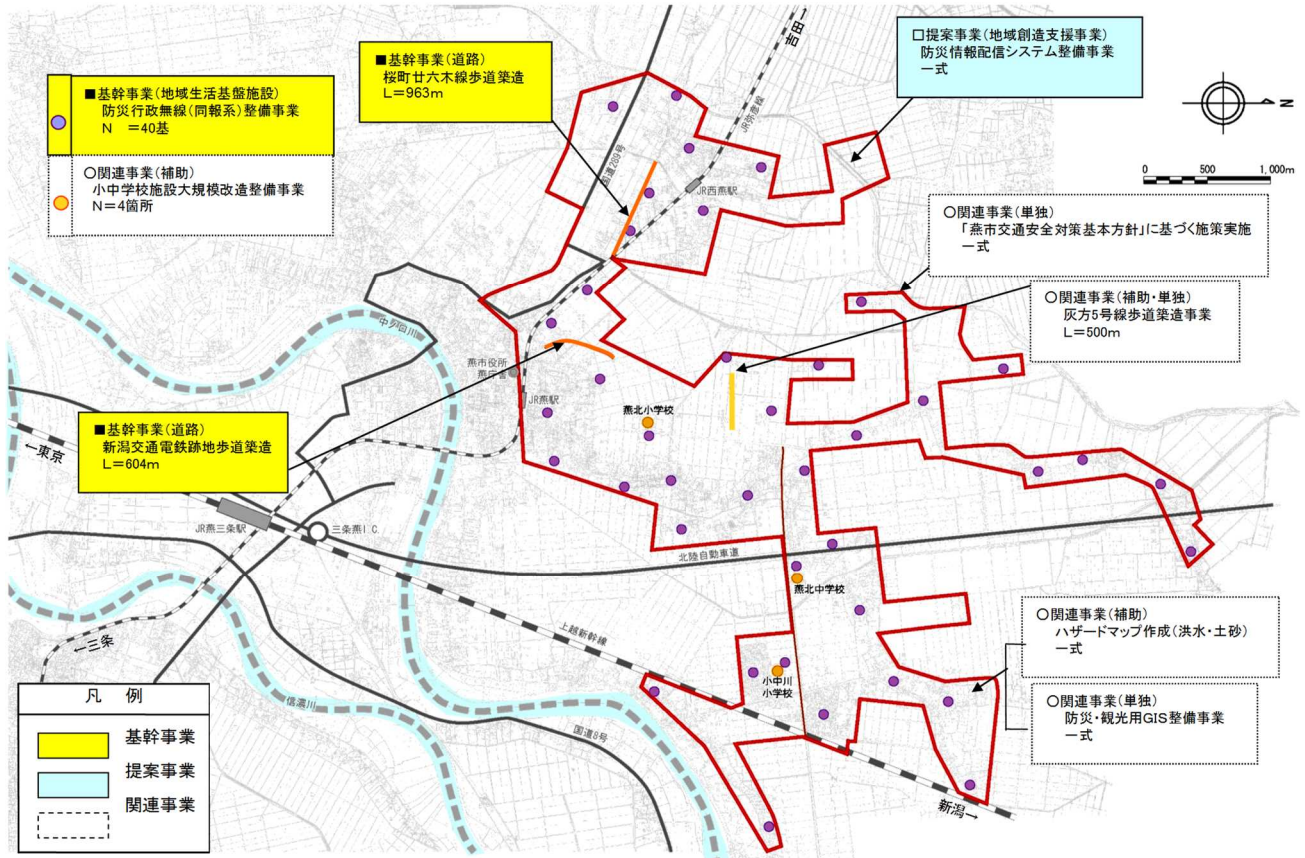
地区概要 「市街地と住宅地」や「各拠点と住宅」を結ぶ
歩行者空間の確保。また、災害に対する総合的な
防災対策としての街路網の整備やネットワークの
構築を促進する。

目標 災害に対する、暮らしの安心・安全を形成する

指標 歩道空間の確保、街路網
やネットワークを整備する
ことにより、安心・安全な
生活環境であるかを指標と
した。

災害関連情報受信可能 世帯率	5% (H18) → 70% (H21)
まちづくり活動の頻度	0回/年 (H18) → 1回/年 (H21)
歩行者関連の交通事故 の発生件数	94件/年 (H18) → 89件/年 (H21)

事業内容 基幹事業 (209百万円) → 歩道 (2カ所 総延長 1,567m)、地域生活基盤 (行政防災無線、40基)
提案事業 (1百万円) → 防災情報配信システム整備 (一式)



地区の現況と課題

旧燕市の行政区域の中心市街地に隣接する本地区は、JR燕駅や西燕駅周辺の商業地からなる市街地と、その周辺に点在する住宅地からなる地区である。課題として以下の3つが挙げられる。

- ・ 地区内の各拠点を結ぶ歩行者空間の確保。
- ・ 緊急災害情報の迅速な配信・伝達を支える情報インフラの構築。
- ・ 地域住民の安全に対する意識の高揚。



▲市街地へと進む道路の歩行者空間が確保できていない

提案事業の特徴

防災情報配信システム整備事業

インターネットのメール機能を活用し、携帯電話等に対して緊急時の災害情報を配信する情報伝達システムを構築する。

計画策定プロセス

地域住民自らが、地域の課題や問題を掘り起こし、解決策を協議し、責任をもって解決していくことで自立した地域づくりを行う組織として、市民の一定の地域を単位とする「まちづくり協議会」を設置し、地域住民による主体的な地域づくりを進めている。

また、それぞれの事業を円滑に効率よく推進していくために、地元の各団体と行政とがその事業の進捗状況、成果、評価、を協議する会合を開催していく。



▲屋外拡張子局設置及び既存設備のデジタル化